

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型支援事業所 笑みっこ		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	TEACCHプログラムの目的でもある環境を物理的に整える構造化を使用しようとした環境設定。	「今、何をすべきか」を分かりやすく提示し、見通しや自身で確認し自立した行動、不安を軽減する事が出来るよう、環境を整理する事を工夫し行っている。	一人一人に合った環境を整えていく事が重要と感じている為、評価を行う上でスタッフ一人一人の見立てる力(アセス)のスキル向上を行い、環境の見直しを定期的に行っていく事で更なる充実を図る事が出来そうである。
2	実際の療育と一緒に参加してもらう親子療育	療育の中で、親子で関わる場面(親子遊び)の設定を行い親子関係を築いてもらえるように工夫を行っている。又、日々の子育てでのお話を聞き、家庭でも出来る関り、環境設定、子どもさんに合わせた工夫をご提案しながら子育てのサポートと一緒に取り組んでいく事を工夫し行っている。	親子で楽しく関わりながら親子関係の構築、遊びを通した内容の工夫を今後も行っていきます。
3	個々に発達過程 個々の特性に合わせた支援	それぞれの状態 発達過程 個々の特性を 踏まえたより細かい丁寧な支援内容の設定を行い、子どもさん達の「出来た！」の成功体験の積み重ねを増やし自信に繋げていく事を意識し行っている。	子どもさんが遊びの中で「出来た！」を体験できる楽しい内容の更なる工夫を行い、スタッフ一人一人のスキル向上に向け取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職配置	現在、専門職配置が"保育士"のみ。保育士の発達段階からみた個々の見立ては行い、個々に合わせた支援の提供を行っている。その他の専門的な部分(理学療法士 言語聴覚士 作業療法士)に関する意見は聞く場面がなかなかない事が課題と感じている。	当事業所には、児童発達支援センターがあるのでそちらと連携を取り、専門職からの意見を聞く場を設定していきます。又、スタッフのスキル向上に向け、勉強会開催等を行っていきます。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型支援事業所 笑みっこ

公表日 令和7年3月28日

利用児童数 11人

回収数 7

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6			1		・一部構造化し、療育の中で導入しているが、説明不足などあった為、しっかりと説明についての説明を行っていく。 ・現在は、バリアフリー等を必要とする児童はいない為、行っていないが通所する子どもさんに合わせて環境を設定していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7					
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6			1		・あまり同じ内容のプログラムにならないように活動内容は週ごとに変更している。時には、同じ内容の事を取り入れ、繰り返した支援を提供している。同じ内容の事をしている目的を丁寧に説明していく。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1		2		・園との平行通園をされている方が多く、常に地域に交流する機会を 中心に 療育へ参加されています。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6			1		・園との平行通園をされている方が多く、常に地域に交流する機会を 中心に 療育へ参加されています。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					・契約時に「重要事項説明書 契約書」を元にお話を行っている。今後も丁寧に説明を行っていく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1				・地域の研修会やペアレントトレーニングの情報は、笑みっこ玄関に貼りだし保護者に通知を行っているが、口頭での説明をつけ具体的にお話をし周知していく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	3	1		2		・企業型の療育の時に兄弟がいる所は一掃に参加出来る場を提供している。 ・企業型の療育を通し、親子で参加してもらい他のご家族との交流が出来るように、支援者が顔に入りながらご家族同士の繋がりが見られるように設定している。年齢の開催が少ない為、開催回数や内容を工夫していく。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3	2				・自己評価についてはホームページで情報をアップしています。SNSに関して、あまり発信が出来ていなかった為、今後は活動風景、告知、色々な事を発信し、周知していきます。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6			1		・個人情報に関しては、十分に注意し丁寧に保管をしている。どのように取り扱いをしているのかを、具体的に説明を行っていく。	

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	1		・各マニュアルがあるので、周知の工夫を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4		3		・年に2回かならず訓練を児童、支援者を行っている。その様子を保護者の方に写真を等を使用し周知していく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	7				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	6	1			・療育の中で怪我や何かしらの変化が見られた時は、保護者の方へ連絡（メールや電話）連絡帳に具体的な説明を行っている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	6	1			・安心感を持ち来所が出来るようにここに合わせた丁寧な関わりの工夫を行っています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	6	1		・家庭でも楽しみにしている ・いつもニコニコと楽しく通っている	・活動内容を予告する等、楽しみを持ち来所が出来るような内容の工夫を行います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6	1		・親自身、勉強になる事がとても多く満足しています。 ・いつもありがとうございます。	・支援に対する目的の周知や子どもさんの成長にどのように影響をしていくのか、具体的にお話をする事が出来るように支援者のスキル向上を含め改善に努めています。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型支援事業所 笑みっこ		公表日	令和7年 3月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		・面積等の設置基準は満たしています。	・子どもたちがそれぞれが分かり易く動かし易い環境に考慮しながら、日々検討しております。ご家族の方にも、環境の意味を説明し、理解を深めます。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		・配置基準は満たしています。	・基準通り配置しております。 ・保護者の方には、人数や内容など丁寧な説明を行い、支援者のスキルアップを図りながら納得していただけるように取り組みます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		<input type="radio"/>	・子どもたちが分かり易いように、環境を物理的、視覚的に整理しています。	・日々整理された環境に心掛けている。階段や段差などがあり、ユニバーサルではない為、個々に合わせた道具で動かし易い工夫を行い、ハード面の改善に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・毎日、朝、夕に清掃を行っています。 ・それぞれが活動しやすいように工夫しています。	・室内環境は常に工夫し、室内のみならず、室外の環境整備にも努め、地域の方との交流を深めます。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		・環境を物理的に整理しているので、個別で使用できるエリアを作り必要に合わせて使用を行っている。	・環境の見直しを行い、必要に合わせて誰でも安心して過ごす事が出来るように調整を行っています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		・職員全体で意識をし、みんなで共通理解を図る時間を設けています。	・PDCAサイクルを意識し、職員全員で検討し、課題解決に向けて取り組みます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・年度末にアンケート調査を行い、保護者からの課題の把握を行い、次年度の事業計画へ反映させています。	・ハード面等で、早急に改善できない部分の説明や対策を十分に行うなどの配慮を行い出来るだけ意に沿う形を工夫しながら、理解して頂けるよう努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・打ち合わせや振り返りの時間の中で職員の意見を聞く時間を設けている。状況に合わせて業務改善を行っている。	・こまめに職員の意見を聞く場を設定していきたいながら、より効率の良い業務改善へと務めていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	・今後、検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		<input type="radio"/>	・職員同士で、自分たちの学んでいる知識を共有する時間を作っている。	・研修への参加が出来る職員と出来ない職員といる為、全ての職員が研修会を受けれるようにスケジュールを立て、計画的に進めていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		・毎月のお便りにて支援プログラムを作成し、保護者の方へお渡ししている。	・SNSなどへも公表を行っています。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		・ご利用の前には担当者会議を開き、ご家族や関係事業所からの聞き取りで状態を把握し、計画に反映しています。ご利用後も毎回、ご家族とお話をしたり連絡帳でのやり取りで情報の共有を図っています。	・計画の内容や支援の内容を丁寧に伝え、本日の子どもの目標達成に向けて活動前にご家族と共有する時間を設定します。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		・契約時に取ったアセスメントを元に職員全員で意見を出し合い、個別支援計画を作成している。	・職員全員の意見を聞く時間を設け、一緒に考え、共通理解を持ち取り組めるように時間を設定していきます。
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・計画を常に確認しながら、計画を基に、療育での目標を設定し目標達成に向けて取り組んでいます。	・子どもの目標や課題の設定、そこから考えられる行動など保護者と共有できる時間の設定を行います。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		・5領域から総合的に、アセスメント出来き、フォーマル、インフォーマルなアセスメントから細分化した細かなアセスメント評価が出来るようにアセスメント力をつける為、日々聞き取りの練習や意識をします。	・常にシートの見直しと改善に取り組みます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		・保護者等の意向や今後の課題、今できている事などを聞き取り、本人の発達段階やご家庭の状況等を踏まえた計画につながるように行なっております。	・今後もガイドラインの理解の徹底、保護者と子どもの課題を調整しながら、将来を見据えた計画になる様見立てる力等のスキル獲得に努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		・プログラムの立案は、チームで振り返りや打ち合わせの中で、それぞれの目標に沿って行っております。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		・活動内容が固定化しないように、子どもたちの好きな物を取り入れながら意欲的に取り組めるよう工夫しています。	・子どもたちの成長共に、心身の変化も見られる為、常に周囲と状況、先を見据えた意識を共有しながら工夫した支援に繋がります。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・子どもたちの発達段階や特性に応じて活動場面で、環境を調整しながらその活動に注目、理解できるよう調整しています。	・常に子どもさんやご家庭の段階に合わせた学びを検討し、作成に努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		・打ち合わせは、チームで振り返りを基に、それぞれの目標に沿って行い、役割分担をしています。	・記録の仕方、内容など業務の負担にも考慮しながら検討していきます。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・振り返りの時間を設定し、子どもの状況や保護者からの相談内容などを共通理解する時間を設けています。	・記録の仕方、内容など常に検討、改善していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・連絡帳と並行して記録を残すようにしている。	・記録も大切にしながら、支援の準備や段取りの確認を徹底しながら進められる様に、内容など検討していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・モニタリング時期には、保護者の方との面談や担当者会議を開き、保護者や関係機関との連携に努めています。	・担当者会議では、事業所や相談委員が主な為、学校や園などの教育機関との連携の強化に努めます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・モニタリング時期には、保護者の方との面談や担当者会議を開き、保護者や関係機関との連携に努めています。	・教育、家庭、福祉とトライアングルでの関わり連携が重要となる為、お互いに連携し合える工夫を提案していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて連携し情報共有できる体制づくりをしています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・相談員との連携を図り、会議等を開きその中で情報共有や相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・必要に応じて学校との面談やサポートブック作成や情報提供などにより、共有を図っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。		○		・今後、検討していきます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○		・こども部会へ参加し、圏域の状況の把握に努めています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		・市町には児童発達支援センターの設置がない為、助言等を受ける機会がなかった。 ・等法人には、児童発達支援センターがあるので連携を図り、今後検討していきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	・今後検討していきます。	・児童館等、公共の機関等を活用を検討します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・親子療育を中心にご家族と子どもの状況や課題について、毎回お話をし共通理解を図っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・同一法人内に療育センターがある為、そちらと連携しています。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時、丁寧な説明を心掛けています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・説明時に意向を確認し、作成を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・保護者との面談の時間を設定し、保護者からの課題と現状を把握し見立てた物から計画を作成し、計画の内容を説明し同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・保護者の方から相談、連絡帳でのやり取りなどから傾聴し、保護者の方が納得、理解できるよう具体的に話し、対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		・日時などで参加が難しいご家庭も多い為、今後検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者の方からの相談など保護者の方と一緒に考え、最善の手段を検討しお伝えしています。	・今後も保護者からの相談に対応していきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○		・SNS等を活用し発信していきます。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報の取扱いは十分徹底しています。		

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>		・毎回の療育日に連絡帳を通して、やり取りを行ったり、直接の面談によりお話をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		<input type="radio"/>		・企画型をする際には地域の方も巻き込んだ企画となるように検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		・マニュアルを作成し、保護者会等で周知、玄関等に掲示するなど取り組んでいる。	・会を開催しているが、参加人数が少ない為、開催方法などを工夫し、保護者の皆さまへの十分な周知方法を検討します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		・適宜、訓練を行って、保護者会などで周知し、保護者同士、意識を高める機会を作っています。	・会を開催しているが、参加人数が少ない為、開催方法などを工夫し、保護者の皆さまへの十分な周知方法を検討します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		・アセスメントシートに記入して頂き、確認をしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		<input type="radio"/>		・現在は、アレルギーのある児童がいない為、行っていないが、今後検討していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・年に2回子どもさん、支援者、保護者と一緒に避難訓練を行っている。	・行っている事の周知が不十分な為、避難訓練の様子を貼りだす等の周知の工夫を行います。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		・契約時に説明を行っている。	・今後は、年に1回と保護者の方へ詳しい内容を周知する時間を設けていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		・過去のヒヤリハットの内容を共有し、改善に努めています。	・ちょっとしたことで、記録に残せる様に共通理解を図ります。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		・虐待防止委員会の設置、研修会等へ参加しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		・子どもさんの特性を踏まえ、そのような行動が起きないように事前対策に努めています。	・緊急時の対応として個別支援計画に丁寧に記載し同意を得ます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型支援事業所 笑みっこ		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	TEACCHプログラムの目的でもある環境を物理的に整える構造化を使用しようとした環境設定。	「今、何をすべきか」を分かりやすく提示し、見通しや自身で確認し自立した行動、不安を軽減する事が出来るよう、環境を整理する事を工夫している。	一人一人に合った環境を整えていく事が重要と感じている為、評価を行う上でスタッフ一人一人の見立てる力(アセス)のスキル向上を行い、環境の見直しを定期的に行っていく事で更なる充実を図る事が出来そうである。
2	個々に発達過程 個々の特性に合わせた支援	それぞれの状態 発達過程 個々の特性を 踏まえたより細かく丁寧な支援内容の設定を行い、子どもさん達の「出来た！」の成功体験の積み重ねを増やし自信に繋げていく事を意識している。	子どもさんが遊びの中で「出来た！」を体験できる楽しい内容の更なる工夫を行い、スタッフ一人一人のスキル向上に向け取り組んでいきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職配置	現在、専門職配置が"保育士"のみ。保育士の発達段階からみた個々の見立ては行い、個々に合わせた支援の提供を行っている。その他の専門的な部分(理学療法士 言語聴覚士 作業療法士)に関しての意見は聞く場面がなかなかない事が課題と感じている。	当事業所には、児童発達支援センターがあるのでそちらと連携を取り、専門職からの意見を聞く場を設定していきます。又、スタッフのスキル向上に向け、勉強会開催等を行っていきます。
2			
3			

事業所名 多機能型支援事業所 笑みっこ

公表日 令和7年3月28日

利用児童数 27

回収数

17

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15			2	・基準を満たしたスペースとなっています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15		1	1	・基準通り配置しております。 ・保護者の方には、人数や内容など丁寧な説明を行い、支援者のスキルアップを図りながら納得していただけるよう取り組みます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	2		1	・個人差に応じて、スノコや段ボールなどを設置し、昇降しやすいよう工夫している ・個々に合わせた環境調整やスケジュールを設定しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17				
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16			1	・支援プログラムについての詳しい説明や支援内容についての具体的な目的を丁寧に説明していきます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14			3	・個別支援計画をご説明する時により詳しく説明が出来るよう、支援者のスキル向上に努めています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1		1	・楽しみしている。帰宅後はとても機嫌がいい
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	4	2	4	・地域の子どもの関わりは分からないが、地域での活動も多くその中で地域の方との関わりが ・今後の学校へ行かれていく方が多い。 ・今後、検討をしていきます。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1		1	・機会があれば参加をしたい ・地域の研修会やペアレントトレーニングの情報は、笑みっこ玄関に貼りだし保護者に通知を行っているが、口頭での説明をつけ具体的にお話をし周知していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	17				・悩み事を相談させて頂いています。 ・今後も、保護者の方から相談、連絡帳でのやり取りなど保護者の方が納得できるよう、具体的に話し対応していきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17				・面談等でも色々アドバイス頂きました。 ・今後も、保護者の方から相談、連絡帳でのやり取りなど保護者の方が納得できるよう、具体的に話し対応していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16			1	・子どもさんの気持ちに寄り添った丁寧な関わりを行いながら支援を行っている。保護者の方にも納得して頂けるように、支援者のスキル向上を図っていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	1	2	2	・参加をしたことがないので分からない ・今年度は諸事情により開催を行う事が出来なかったが、今後は開催に向けて企画を行っていく。その中で開催時期、日時などの関係もあり、皆さんが集まれるように計画を工夫します。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	2			
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10	3	1	3	・啓発が不足しているので、啓発の工夫をおこします。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			1	・個人情報の取り扱いには、十分注意するよう職員全体で取り組んでいますが、今後も共通理解の徹底していきます。	

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1	5	・ポスターなどでの見える所に貼ってある	・マニュアルは策定しており、保護者会も開催しその時に周知しております。また、周知が十分ではない為、個別に説明を行うなど丁寧な説明を行います。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9		2	6		・訓練等行い、保護者会も開催しその時に周知しております。また、周知が十分ではない為、個別に説明を行うなど丁寧な説明を行います。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	14	1		2		・計画についての説明を丁寧に行い、支援を行っていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	15			2	・何かあった時は、連絡を頂いた。	・療育の中で怪我や何かしらの変化が見られた時は、保護者の方へ連絡（メールや電話）連絡帳に具体的な説明を行っている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17				・安心して通う事が出来ている ・車内の中で楽しかった出来事を沢山話してくれます。	・今後も、安心して来所が出来るように努めていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17				・楽しみにしている様子。	・楽しく通う事が出来るように、活動、支援の工夫を行っていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型支援事業所 笑みっこ				公表日	令和7年3月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・面積等の設置基準は満たしています。	・子どもたちがそれぞれが分かり易く行動し易い環境に考慮しながら、日々検討しております。ご家族の方にも、環境の意味を説明し、理解を深めます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・配置基準は満たしています。	・基準通り配置しております。 ・保護者の方には、人数や内容など丁寧な説明を行い、支援者のスキルアップを図りながら納得していただけるように取り組みます。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・子どもたちが分かり易いように、環境を物理的、視覚的に整理しています。	・日々整理された環境に心掛けています。階段や段差などがあり、ユニバーサルではない為、個々に合わせた道具で行動し易い工夫を行い、ハード面の改善に努めます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日、朝、夕に清掃を行っています。 ・それぞれが活動しやすいように工夫しています。	・室内環境は常に工夫し、室内のみならず、室外の環境整備にも努め、地域の方との交流を深めます。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・環境を物理的に整理しているので、個別で使用できるエリアを作り必要に合わせて使用を行っている。	・環境の見直しを行い、必要に合わせて誰でも安心して過ごす事が出来るように調整を行っていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・職員全体で意識をし、みんなで共通理解を図る時間を設けています。	・PDCAサイクルを意識し、職員全員で検討し、課題解決に向けて取り組みます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・年度末にアンケート調査を行い、保護者からの課題の把握を行い、次年度の事業計画へ反映させています。	・ハード面等で、早急に改善できない部分の説明や対策を十分に行うなどの配慮を行い出来るだけ意に沿う形を工夫しながら、理解して頂けるよう努めます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・打ち合わせや振り返りの時間の中で職員の意見を聞く時間を設けている。状況に合わせて業務改善を行っている。	・ごまめに職員の意見を聞く場を設定していきながら、より効率の良い業務改善へと務めていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・今後、検討していきます。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○	・職員同士で、自分たちの学んでいる知識を共有する時間を作っている。	・研修への参加が出来る職員と出来ない職員といる為、全ての職員が研修会を受けられるようにスケジュールを立て、計画的に進めていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・毎月のお便りにて支援プログラムを作成し、保護者の方へお渡ししている。	・SNSなどへも公表を行っていきます。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・ご利用の前には担当者会議を開き、ご家族や関係事業所からの聞き取りで状態を把握し、計画に反映しています。ご利用後も毎回、ご家族とお話をしたり連絡帳でのやり取りで情報の共有を図っています。	・計画の内容や支援の内容を丁寧に伝え、本日の子どもの目標達成に向けて活動前にご家族と共有する時間を設定します。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・契約時に取ったアセスメントを元に職員全員で意見を出し合い、個別支援計画を作成している。	・職員全員の意見を聞く時間を設け、一緒に考え、共通理解を持ち取り組めるように時間を設定していきます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画を常に確認しながら、計画を基に、療育での目標を設定し目標達成に向けて取り組んでいます。	・子どもの目標や課題の設定、そこから考えられる行動など保護者と共有できる時間の設定を行います。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・5領域から総合的に、アセスメント出来き、フォーマル、インフォーマルなアセスメントから細分化した細かなアセスメント評価が出来るようにアセスメント力をつける為、日々聞き取りの練習や意識をします。	・常にシートの見直しと改善に取り組みます。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・保護者等の意向や今後の課題、今できている事などを聞き取り、本人の発達段階やご家庭の状況等を踏まえた計画につなげるように行なっております。	・今後もガイドラインの理解の徹底、保護者と子どもの課題を調整しながら、将来を見据えた計画になる様見立てる力等のスキル獲得に努めます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・プログラムの立案は、チームで振り返りや打ち合わせの中で、それぞれの目標に沿って行っております。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・活動内容が固定化しないように、子どもたちの好きな物を取り入れながら意欲的に取り組めるよう工夫しています。	・子どもたちの成長共に、心身の変化も見られる為、常に周囲と状況、先を見据えた意識を共有しながら工夫した支援に繋がります。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・子どもたちの発達段階や特性に応じて活動場面、環境を調整しながらその活動に注目、理解できるよう調整しています。	・常に子どもさんやご家庭の段階に合わせた学びを検討し、作成に努めます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・打ち合わせは、チームで振り返りを基に、それぞれの目標に沿って行い、役割分担をしています。	・記録の仕方、内容など業務の負担にも考慮しながら検討していきます。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・振り返りの時間を設定し、子どもの状況や保護者からの相談内容などを共通理解する時間を設けています。	・記録の仕方、内容など常に検討、改善していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・連絡帳と並行して記録を残すようにしている。	・記録も大切にしながら、支援の準備や段取りの確認を徹底しながら進められる様に、内容など検討していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・モニタリング時期には、保護者の方との面談や担当者会議を開き、保護者や関係機関との連携に努めています。	・担当者会議では、事業所や相談委員が主な為、学校や園などの教育機関との連携の強化に努めます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		・ガイドラインの確認を行い活動を決定する際は、4つの基本活動の組み合わせを行う事が出来るように内容を工夫している。	・今後もガイドラインの理解の徹底、保護者と子どもの課題を調整しながら、将来を見据えた計画になる様、見立てる力等のスキル獲得に努めます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・子どもの自己決定した事を受け入れ、認めながら自身で決定した事に自信を持つ事が出来るように支援を行っている。	・子どもたちの自己決定をする力が伸びていくように、関りからのスキル向上を目指していきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・モニタリング時期には、保護者の方との面談や担当者会議を開き、保護者や関係機関との連携に努めています。	・教育、家庭、福祉とトライアングルでの関わり連携が重要となる為、お互いに連携し合える工夫を提案していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて連携し情報共有できる体制づくりをしています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・時間割を頂く等、学校とお迎えの時に連携を図っている。又、急な対応等は電話をかけた情報を共有している。	・今後も、学校との連携を密に行っていきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・必要に応じて学校との面談やサポートブック作成や情報提供などにより、共有を図っています。	・放課後等デイサービスについての認知不足を感じます。学校にも啓発できるように連携していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・放課後等デイサービスについての認知不足を感じます。学校にも啓発できるように連携していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・市町には児童発達支援センターの設置がない為、助言を受ける機会がなかった。 ・等法人には、児童発達支援センターがあるので連携を図り、今後検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・今後検討していきます。	・児童館等の利用を検討します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・こども部会へ参加し、圏域の状況の把握に努めています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・親子療育を中心にご家族と子どもの状況や課題について、毎回お話をし共通理解を図っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・同一法人内に療育センターがある為、そちらと連携しています。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時、丁寧な説明を心掛けています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・説明時に意向を確認し、作成を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・保護者との面談の時間を設定し、保護者からの課題と現状を把握し見立てた物から計画を作成し、計画の内容を説明し同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・保護者の方から相談、連絡帳でのやり取りなど保護者の方が納得できるよう、具体的に話し対応しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			・日時などで参加が難しいご家庭も多い為、今後検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情解決委員会の活用と苦情ボックス等を設定し、早期発見、対応に努めています。	・今後も保護者からの相談に早期対応していきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			・SNS等を活用し発信していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報の取扱いは十分徹底しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・毎回の療育日に連絡帳を通して、やり取りを行ったり、直接の面談によりお話をしています。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・企画型をする際には地域の方も巻き込んだ企画となるように検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・マニュアルを作成し、保護者会等で周知、玄関等に掲示するなど取り組んでいる。	・会を開催しているが、参加人数が少ない為、開催方法などを工夫し、保護者の皆さまへの十分な周知方法を検討します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・適宜、訓練を行って、保護者会などで周知し、保護者同士、意識を高める機会を作っています。	・会を開催しているが、参加人数が少ない為、開催方法などを工夫し、保護者の皆さまへの十分な周知方法を検討します。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・アセスメントシートに記入して頂き、確認をしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		・現在は、アレルギーのある児童がいない為、行っていないが、今後検討していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・年に2回子どもさん、支援者、保護者と一緒に避難訓練を行っている。	・行っている事の周知が不十分な為、避難訓練の様子を貼りだす等の周知の工夫を行います。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・契約時に説明を行っている。	・今後は、年に1回と保護者の方へ詳しい内容を周知する時間を設けていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・過去のヒヤリハットの内容を共有し、改善に努めています。	・ちょっとしたことでも、記録に残せる様に共通理解を図ります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止委員会の設置、研修会等へ参加しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・子どもさんの特性を踏まえ、そのような行動が起きないように事前対策に努めています。	・緊急時の対応として個別支援計画に丁寧に記載し同意を得ます。	

事業所名 多機能型支援事業所 笑みっこ(児童発達支援)

支援プログラム(参考様式)

作成日 令和7年 3月 1日

法人(事業所)理念	法人理念 感・共・和	
支援方針	家族とこどものウェルビーイングの実現を、共に!!!	
営業時間	8時 30分から 17時 30分まで	送迎実施の有無 迎・あり 送・なし
TEACCHプログラム	環境のなかでさまざまな相互作用により、こどもは成長や発達をする。こどもの状態を矯正していくのではなく、環境にアプローチを行い一人ひとりの持っている優れた能力を発揮できるように支援する事を目標とする。また、保護者や関係者と連携を図りながら移行支援も含めたライフステージに合わせた育ちを支える。TEACCHプログラムという支援の考え方の枠組みを活用しながら、プレイセラピー、ワークシステム、SST、感覚統合遊び、ビジョントレーニング、シェイピング、応用行動分析、PECSなど様々な手法を用いてエンパワメント力を育てる。	
支援内容		
本人支援	健康・生活	<p>【健康状態の把握】 ご利用中に決められた時間で、健康観察を行い心身の状態をきめ細やかに把握を行う。また、保護者や先生など引継ぎの際の連絡事項を、職員と共有する。また、自らの身体状況の変化を伝えられ健康で安全に参加できるように支援を行う。</p> <p>【生活リズムの形成・健康の促進】 睡眠、食事、運動状況の把握を行い、状態に合わせた活動の中におやつ、粗大遊び、微細運動遊び、適宜休息する時間を取り入れ、基本となる生活リズムの調整、体力づくりを行う。苦手な感覚、衣服の調整、室温の管理など快適な生活に向けて合理的な配慮を行う。</p> <p>【基本的な生活スキルの獲得・マネジメント】 先の見通しが持てる生活を目指し、物理的、視覚的な構造化を活用しながら、視覚的なスケジュールを使用し自分が分かりやすい方法で安心して生活が送れるように支援する。最初はマネジメント行いながら、後に自分自身で組み立ててできる行動を増やし、自制心を育みエンパワメント力が向上できるようにステップを踏んだ支援を行う。</p> <p>【アタッチメント】 こどもの困り感に、適切に寄り添い助けることで、愛着形成、情緒の安定を図ります。</p>
	運動・感覚	<p>【姿勢と運動。動作の基本的技能の向上】 食事、排泄、着脱等基本的な動作獲得に向けて、発達段階にあわせた基礎となる運動遊びや、手指課題を通して、姿勢保持や運動、身辺動作の習得、筋力強化、下肢、上肢の安定を強化を図る。活動取り組みにあたり、課題難易度と機能難易度、シェイピング、逆行連鎖等を両立させ、こどもさんが動機づけやすく、意欲的に取り組みやすい手法を用いる。</p> <p>【身体保持・運動の補助的活用】 身体状況に合わせ、個々にあった椅子の高さ、机の高さを調整、又はバスタオルやクッション、牛乳箱などご家庭で手に入る物を活用し、身体保持の補助用具として活用し、身体保持の安定を図る。</p> <p>【保有する感覚の活用/補助と代行手段、感覚特性への対応】 感覚遊びや感覚統合遊びなど、遊びや体験を通して感覚の活用と補填、調整や統合を行う事で領域のさまざまな部分に影響される課題の解決を図ります。また、苦手な感覚には、補助用具の活用、空調の調整、明暗、においなど合理的に配慮する。</p>
	認知・行動	<p>【認知の特性についての理解と対応】 個々の障がい特性、学習のスタイルに応じ、周囲から捉える感覚が適切に処理できるように、視覚的な支援や感覚的な支援、個々の記憶や思考、情報処理能力に配慮した関わりを行い、環境から情報を収集しやすいよう、実物、絵、写真、イラスト、文字、道具などを活用し認知の発達を促す支援を行う。ビジョントレーニングを通して、眼球運動、視空間認知、両目のチームワークと機能向上を図り、外からの状況を受け取り、身体を使い、空間の中に操作したり表現できるように支援する。</p> <p>【知覚から情報を適切に認知し適切な行動への認知過程】 個別、集団療育の中で、その環境から適切な情報に注目し、情報を適切に収集しやすいように物理的な環境の調整、視覚的なスケジュール、ワークシステム、絵カード、視覚的な教材を用いて「可視化」するなど、必要な情報を自ら取捨選択して「自発的な表現」に繋げられる様に認知過程の発達を支援する。</p> <p>【認知や行動の手掛かりとなる概念の形成】 数の概念、色、物、道具の認知、比較を表す形容詞(大小、近い遠いなど)などは、興味関心のあるパズルや絵本、ボックス課題や実体験ができる活動を取り入れ、経験を重ねる支援を行う。</p> <p>【行動障がいへの予防及び対応】 フォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントから認知の特性を踏まえ、こどもが容易に理解できる教材・教具を活用し、自分にとっての情報をゆくり適切に処理し、安心して行動へ移行できるように支援する。また、こどもをその環境へ適応させるのではなく、周囲の環境(物、人)の状況や関わり方に注目するなどの特性に対して環境に配慮する。 ※優しい声で、ゆっくり、笑顔で、こどもが情報を受け取る準備がしやすい準備を行ったところで明確で簡潔に指示することが基本。言動自体を否定するのではなく、良い行動を促す支援を行う。</p>
	言語コミュニケーション	<p>【コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出】 発達段階や特性に合わせた実物やイラスト、写真、絵カード、ジェスチャー、身振り手振りなど、言語、非言語のコミュニケーション方法、また、文書を組み立てられる教材を活用し、あつまりや活動の中で、発表する機会を作り、具体的な体験や言葉の構成、言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 また、遊びの時間を大切に遊びを通して自分の気持ちを表現したり、考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p> <p>【コミュニケーションの方法を学び、相手とコミュニケーションをする楽しさを知ってもらいます。また、適切なコミュニケーションの方法を知る事で、不適切な行動を減らし、家族や支援者に気持ちを適切に伝えられることで、愛着の形成を容易にします。</p> <p>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】 こどもが見ている世界に注目し、こどもの視線と支援者の視線を合わせる所から共同注意する体験を繰り返し、相手と同じものを見ている相手に受け入れてもらった嬉しさを体感し、コミュニケーションの楽しさを実感させる。</p>
	人間関係社会性	<p>【アタッチメントの形成と安定】 こどもを否定しない、こどもの行動を認め、環境を調整し工夫する。自発的に話す、聞く、触る、求めるなどのコミュニケーションを通して、人との関わりが安心できる関係を築き、その信頼関係を基盤として、情緒の安定を図る。情緒が安定する中で、興味関心のある物や活動を活用しながら周囲と関わり、人間関係を形成する為の支援を行う。</p> <p>【遊びを通じた社会性の発達】 遊びを通して、折り合いや我慢、交換、順番など相手と関わる上で必要なスキルの獲得に向けてステップで支援する。大人との遊びで体験し、経験したことを、こども同士との遊びに一般化させると同時にステップで仲間づくりと集団への参加に結びつける。 【自己理解と行動の調整】 発達段階や個々の特性を理解し、合理的な配慮を行い、自分が得意なことや苦手なことを理解し苦手なことは工夫でカバーし、気持ちや感情の調整ができるように、苦手な事への工夫や対処の仕方と一緒に考え物に出来るように支援する。</p>
家族支援	<input type="checkbox"/> 親子療育 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 面談 <input type="checkbox"/> 学習会 <input type="checkbox"/> 兄妹支援 <input type="checkbox"/> 上記を通して、子育てや関係機関との悩み相談、助言、関わり方を学ぶ学習会や、就学、進学、就職等へ情報提供などのサポートを行う。	移行支援
地域支援・地域連携	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、市町、教育、かかりつけ医、他の療育先、相談支援事業所、自立支援協議会等と連携を図り、情報を共有することにより、こどもの理解を一層深く、円滑に繋がっていくように連携を図る。	職員の質の向上
主な行事等	<input type="checkbox"/> 親子参加型の企画 <input type="checkbox"/> 避難訓練年2回 <input type="checkbox"/> 防犯訓練1回 <input type="checkbox"/> 衛生管理・事故防止訓練 年2回 <input type="checkbox"/> 虐待防止・身体拘束研修 <input type="checkbox"/> 安全計画策定見直し <input type="checkbox"/> 子どもだけへの企画 <input type="checkbox"/> 兄弟児を含めた企画	

事業所名 多機能型支援事業所 笑みっこ(放課後等デイ)

支援プログラム(参考様式)

作成日 令和7年 3月 1日

法人(事業所)理念		法人理念 感・共・和	
支援方針		家族とこどものウェルビーイングの実現を、共に!!!	
営業時間		8時 30分から 17時 30分まで	送迎実施の有無 迎・あり 送・なし
TEACCHプログラム		環境のなかでさまざまな相互作用により、こどもは成長や発達をする。こどもの状態を矯正していくのではなく、環境にアプローチを行い一人ひとりの持っている優れた能力を発揮できるように支援する事を目標とする。また、保護者や関係者と連携を図りながら移行支援も含めたライフステージに合わせた育ちを支える。TEACCHプログラムという支援の考え方の枠組みを活用しながら、プレイセラピー、ワークシステム、SST、感覚統合遊び、ビジョントレーニング、シェイピング、応用行動分析、PECSなど様々な手法を用いてエンパワメント力を育てる。	
支援内容			
本人支援	健康・生活	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康状態の維持・改善 生活習慣や生活リズムの形成 基本的な生活習慣の獲得 生活におけるマネジメントスキルの育成 	<p>【健康状態の把握】</p> <p>ご利用中に決められた時間で、健康観察を行い心身の状態をきめ細やかに把握を行う。また、保護者や先生など引継ぎの際の連絡事項を、職員と共有する。また、自らの身体状況の変化を伝えられ健康で安全に参加できるように支援を行う。</p> <p>【生活リズムの形成・健康の促進】</p> <p>睡眠、食事、運動状況の把握を行い、状態に合わせた活動の中におやつ、粗大遊び、微細運動遊び、適宜休息する時間を取り入れ、基本となる生活リズムの調整、体力づくりを行う。苦手な感覚、衣服の調整、室温の管理など快適な生活に向けて合理的な配慮を行う。</p> <p>【基本的な生活スキルの獲得・マネジメント】</p> <p>先の見通しが持てる生活を目指し、物理的、視覚的な構造化を活用しながら、視覚的なスケジュールを使用し自分が分かりやすい方法で安心して生活が送れるように支援する。最初はマネジメント行いながら、後に自分自身で組み立ててできる行動を増やし、自制心を育みエンパワメント力が向上できるようにステップを踏んだ支援を行う。</p> <p>【アタッチメント】</p> <p>こどもの困りに、適切に寄り添い助けることで、愛着形成、情緒の安定を図ります。</p>
	運動・感覚	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢と運動。動作の基本的技能の向上。 保持、運動、動作の補助手段の活用。 身体の移動能力の向上。 保有する感覚の活用。 感覚の補助及び代行手段の活用。 感覚の特性への対応。 	<p>【姿勢と運動。動作の基本的技能の向上】</p> <p>食事、排泄、着脱等基本的な動作獲得に向けて、発達段階にあわせた基礎となる運動遊びや、手指課題を通して、姿勢保持や運動、身辺動作の習得、筋力強化、下肢、上肢の安定を強化を図る。活動取り組みにあたり、課題難易度と機能難易度、シェイピング、逆行連鎖等を両立させ、こどもさんが動機づけやすく、意欲的に取り組みやすい手法を用いる。</p> <p>【身体保持・運動の補助手段活用】</p> <p>身体状況に合わせ、個々にあった椅子の高さ、机の高さを調整、又はバスタオルやクッション、牛乳箱などご家庭で手に入る物を活用し、身体保持の補助用具として活用し、身体保持の安定を図る。</p> <p>【保有する感覚の活用/補助と代行手段、感覚特性への対応】</p> <p>感覚遊びや感覚統合遊びなど、遊びや体験を通して感覚の活用と補填、調整や統合を行う事で領域のさまざまな部分に影響される課題の解決を図ります。また、苦手な感覚には、補助用具の活用、空調の調整、明暗、においなど合理的に配慮する。</p>
	認知・行動	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知の特性についての理解と対応 外からの情報を適切に認知し適切な行動の習得 行動障害への予防、及び対応 	<p>【認知の特性についての理解と対応】</p> <p>個々の障がい特性、学習のスタイルに応じ、周囲から捉える感覚が適切に処理できるように、視覚的な支援や感覚的な支援、個々の記憶や思考、情報処理能力に配慮した関わりを行い、環境から情報を収集しやすいよう、実物、絵、写真、イラスト、文字、道具などを活用し認知の発達を促す支援を行う。ビジョントレーニングを通して、眼球運動、視空間認知、両目のチームワークと機能向上を図り、外からの状況を受け取り、身体を使い、空間の中に操作したり表現できるように支援する。</p> <p>【知覚から情報を適切に認知し適切な行動への認知過程】</p> <p>個別、集団療育の中で、その環境から適切な情報に注目し、情報を適切に収集しやすいように物理的な環境の調整、視覚的なスケジュール、ワークシステム、絵カード、視覚的な教材を用いて「可視化」するなど、必要な情報を自ら取捨選択して「自発的な表現」に繋げられる様に認知過程の発達を支援する。</p> <p>【認知や行動の手掛かりとなる概念の形成】</p> <p>数の概念、色、物、道具の認知、比較を表す形容詞(大小、近い遠いなど)などは、興味関心のあるパズルや絵本、ボックス課題や実体験ができる活動を取り入れ、経験を重ねる支援を行う。</p> <p>【行動障がいへの予防及び対応】</p> <p>フォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントから認知の特性を踏まえ、こどもが容易に理解できる教材・教具を活用し、自分にとっての情報をゆくり適切に処理し、安心して行動へ移行できるように支援する。また、こどもをその環境へ適応させるのではなく、周囲の環境(物、人)の状況や関わり方に注目するなどの特性に対して環境に配慮する。</p> <p>※優しい声で、ゆっくり、笑顔で、こどもが情報を受け取る準備がしやすい準備を行ったところで明確で簡潔に指示することが基本。言動自体を否定するのではなく、良い行動を促す支援を行う。</p>
	言語コミュニケーション	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの基礎的能力の向上 言語の受容と表出 言語の形成と活用 人ととの相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 コミュニケーション手段の選択と活用 状況に応じたコミュニケーション能力 	<p>【コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出】</p> <p>発達段階や特性に合わせた実物やイラスト、写真、絵カード、ジェスチャー、身振り手振りなど、言語、非言語のコミュニケーション方法、また、文書を組み立てられる教材を活用し、あつまりや活動の中で、発表する機会を作り、具体的な体験や言葉の構成、言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。</p> <p>また、遊びの時間を大切にして遊びを通して自分の気持ちを表現したり、考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p> <p>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の向上】</p> <p>コミュニケーションの方法を学び、相手とコミュニケーションをする楽しさを知ってもらいます。また、適切なコミュニケーションの方法を知る事で、不適切な行動を減らし、家族や支援者に気持ちを適切に伝えられることで、愛着の形成を容易にします。</p> <p>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】</p> <p>こどもが見ている世界に注目し、こどもの視線と支援者の視線を合わせる所から共同注意する体験を繰り返し、相手と同じものを見ている相手に受け入れてもらった嬉しさを体感し、コミュニケーションの楽しさを実感させる。</p>
	人間関係社会性	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> アタッチメント(愛着)の形成と安定 情緒の安定 他者との関わり(人間関係)の形成 遊びを通じた社会性の発達 自己の理解と行動の調整 仲間づくりと集団への参加 	<p>【アタッチメントの形成と安定】</p> <p>こどもを否定しない、こどもの行動を認め、環境を調整し工夫する。自発的に話す、聞く、触る、求めるなどのコミュニケーションを通して、人との関わりが安心できる関係を築き、その信頼関係を基盤として、情緒の安定を図る。情緒が安定する中で、興味関心のある物や活動を活用しながら周囲と関わり、人間関係を形成する為の支援を行う。</p> <p>【遊びを通じた社会性の発達】</p> <p>遊びを通して、折り合いや我慢、交換、順番など相手と関わる上で必要なスキルの獲得に向けてステップで支援する。大人との遊びで体験し、経験したことを、こども同士との遊びに一般化させると同時にステップで仲間づくりと集団への参加に結びつける。</p> <p>【自己理解と行動の調整】</p> <p>発達段階や個々の特性を理解し、合理的な配慮を行い、自分が得意なことや苦手なことを理解し苦手なことは工夫でカバーし、気持ちや感情の調整ができるように、苦手な事への工夫や対処の仕方と一緒に考え物に出来るように支援する。</p>
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 親子療育 相談 面談 学習会 兄妹支援 <p>上記を通して、子育てや関係機関との悩み相談、助言、関わり方を学ぶ学習会や、就学、進学、就職等へ情報提供などのサポートを行う。</p>	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域移行に向けた、関係機関への情報提供を行う事で円滑に移行できるようにサポートを行う。また就学、進学、就職等に向けたトレーニング・実習・見学など丁寧なサポートを行い、円滑な地域移行に繋げる。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、市町、教育、かかりつけ医、他の療育先、相談支援事業所、自立支援協議会等と連携を図り、情報を共有することにより、こどもの理解を一層深く、円滑に繋がっていくように連携を図る。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> OT、OFF、JT
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 親子参加型の企画 避難訓練年2回 防犯訓練1回 衛生管理・事故防止訓練 年2回 虐待防止・身体拘束研修 安全計画策定見直し 兄弟児を含めた企画 		